

石川県金沢市

まちで生きる
未来を紡ぐ

地域に根差した
診療を行う
小児科医たち

地域全体で 感染症対策に取り組み アウトブレイクを未然に防ぐ

石川県下の小児科医や行政機関との連携の下、感染症対策の基礎となる独自のサーベイランス体制を構築してきた、わたなべ小児科医院の渡部礼二先生。具体的な内容やその成果などについて、女優の大河内奈々子さんがお話を伺いました。



おおこうち ななこ
大河内奈々子
(女優)

わたなべ れいじ
渡部礼二
(わたなべ小児科医院 院長)

小児科医による独自の モニタリングシステムを構築

大河内 今年で5歳になった息子は、以前、身体が弱かった時期があり、親としてはいつ体調を崩してしまうかと、気が気でありませんでした。日々、子どもの健康管理には気をつけていますが、特に心配なのが感染症です。今年は風疹が大流行していますしね。必要なワクチンは接種させているものの、こればかりは個人の対応では限界があるように思います。

渡部 おっしゃる通り、感染症はいざ流行してしまうと、地域全体で対策に取り組みなければ効果が上がりません。とりわけ重要になるのは、いかにアウトブレイク（流行拡大）が起きる前の段階で、地域を挙げた封じ込めができるかということ。そのためにも、常に小さな変化も見逃さないよう、情報収集に努めることが必要です。

大河内 渡部先生をはじめ、石川県内の小児科の先生方は、早くから情報を共有するための技術を活用して、そのための仕組みづくりに尽力されたようですね。

渡部 国や県でも感染症情報を出しているのですが、2週間ほどのタイムラグがあるため、従来は機動的な対応が困難でした。そこでインターネットが普及した2000年に、小児科医の情報交換の場として、会員内で電子メールを配信する「小児科医メーリングリスト」（以下、ML）を立ち上げたのです。迅速に情報共有を図るという点では、ネットコミュニケーションに勝るものはありませんからね。

もともと、1982年に発足した金沢大学小児科医局のOB、OGによる症例検討会「小児科月一会」が母体ですが、今では勤務医、開業医、大学等の研究医など、石川県の小児科医のほとんどが、会員に加わっています。



渡部礼二

Reiji Watanabe

金沢市生まれ。1973年金沢大学医学部卒業後、金沢大学小児科学教室に入局。富山県立中央病院、金沢赤十字病院、敦賀市立病院、石川県立中央病院、富山済生会病院で研修。勤務後、1988年にわたなべ小児科医院を開院。近年は感染症情報、予防接種体制等公衆衛生、疫学に傾注している。金沢市小児科医会会長、石川県小児科医会理事、金沢市医師会理事(学校保健、母子・乳幼児保健、時間外救急医療関係を担当)、金沢大学医学部臨床教授などを務める。

大河内 MLの具体的な仕組みはどのようなものですか。

渡部 会員から報告のあったインフルエンザ情報は、小学校や保育所等の施設単位で集計し、週2回配信しています。その他の感染症は週に二度、疾患別に居住地区、施設名、年齢、性別、診断日をまとめた詳細な情報を配信しています。要は小児科医有志による新しいローカルモニタリングシステムを構築したというわけです。

大河内 詳細な感染症情報が、多くの小児科の先生に、一斉に伝えられるメリットは非常に大きいでしょうね。

渡部 ええ、実際に日々の診療にも役立ちますよ。例えば麻疹(はしか)に関しては、普段診断する機会は少ないし、発症初期は風邪の症状と似ているため、区別がつきにくい。しかし、あらかじめ発生状況を知っていれば、診断もつきやすくなるし、二次感染を防止するための措置もスムーズに実施できます。

行政など関係機関と連携して麻疹(はしか)の集団感染を予防

大河内 MLの発足以降、とりわけ麻疹(はしか)の集団感染防止にご尽力されているようですね。



渡部 麻疹(はしか)は感染力が高く、わが国でも集団感染事例の報告が相次いでいます。石川県内でも2001年春、能登地区から16名の患者の発生がMLによつて明らかになりました。しかし、このときは行政・医師会で有効な対策がとられなかったために、県下全域への流行拡大を止められませんでした。

この苦い経験を教訓に、医療機関はもとより、保健・行政機関や保育・教育機関などを巻き込んだ、統一的な対策の必要性が改めて認識されました。そこで、2002年に石川県小児科医会が「石川はしかゼロ作戦委員会」を立ち上げ、ほぼ同時に、麻疹(はしか)を診断した医師がその日のうちに所轄の保育所に報告する「石川県麻疹迅速把握事業」が県の事業としてスタートしました。国が「全数把握」に踏み切ったのは2008年ですから、その先駆けとなったわけです。

大河内 画期的な体制整備を行ったわけですね。実際に見える形での成果も挙げられたとお聞きしています。



大河内奈々子

Nanako Ohkouchi

1977年生まれ、東京都出身。モデルとして活動後、女優業を中心に活躍。数多くの映画・ドラマに出演している。2013年の第62回金沢百万石まつりでは、前田利家公の正室、お松の方役を務めた。おもちゃアドバイザー、子育てアドバイザーの資格を持つ。一児の母。



渡部 2003年4月、近県で開催された全国高等学校剣道大会を発端に、全国的に麻疹(はしか)集団感染が発生しました。石川県でも複数の高校剣道部で感染が明らかになり、6月初旬にはこの大会に応援に行った大学生から、県内の大学で集団感染の兆候も現れました。この兆候をいち早く知り得たのは、MLはもとより、「迅速把握事業」の成果といつていいでしょう。

早速、「石川はしかゼロ作戦委員会」が大学に拡大防止策を提言するとともに、保健所の指導と助言もなされました。その結果、約6300人の集団予防接種が実施され、さらなる感染拡大を防ぐことができました。効果はそれだけにとどまりません。後日、保健所が実施した詳細な疫学調査で、ある事実が再認識されました。

大河内 どういう事実でしょう。

渡部 麻疹(はしか)の場合、幼少期に2度予防接種を受けても、罹患する危険性があるという事実です。私を含め「石川はしかゼロ作戦委員会」のメンバーが、このことを関連雑誌や論文、講演などで強く訴えた結果、麻しんワクチンの2回接種の有効性が世間に広く伝わりました。2006年より全国的に2回接種する方式に改められるきっかけになったのではないかと思っています。さらに2003年8月には懸案だった診療現場や教

育・保育現場で麻疹(はしか)を診断した場合の対処、注意点を実践的に記載した「麻しん対応マニュアル」も作成。県内の医療機関、すべての学校・幼稚園・保育園に配布しました。

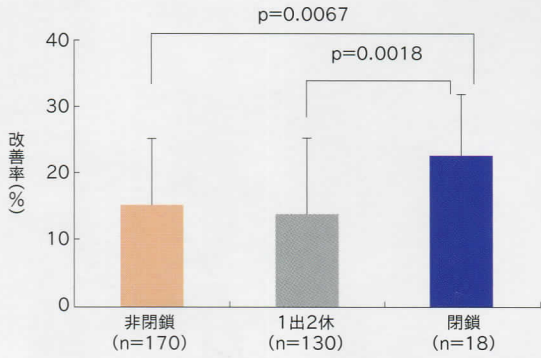
「自ら考え、提案したい」 前向きな行動が医者としての原点

大河内 渡部先生は感染症対策のほかに、校医や幼稚園の園医、保育所の嘱託医としても活動されています。とりわけ保育所の嘱託医としては、子どもたちの日々の健康管理も実施されていますね。

渡部 保育所の嘱託医の仕事は年に2回の健診だけと思われがちですが、そんなことはありません。子どもたちの日々の健康管理は、「保育所保育指針」にも明文化されているんですよ。

ただし、医院での診療活動がありますから、毎日保育所へ出かけることは時間的に難しい。そこで、電子メール

図 3日間閉鎖と対照群の改善率の比較



閉鎖群を対照としたDunnnettの方法による多重比較。P<0.05を有意差ありとした。

インフルエンザ流行時期に学級の欠席率が20%を超えた時点で2日間の学級閉鎖を行っても欠席率の改善は期待できないが、3日間の閉鎖では改善の効果が期待できることが統計学的に示された。

【出典】小児科月一会：日本小児科学会雑誌 113(6)：939-944, 2009

を利用して、子どもたち一人ひとりの健康状態が毎日ファイルで送られてきます。疾病の種類と数がクラスごとに集計され、自動的にグラフ化されますから、すぐに状況を把握できるんです。疾病の注意点や近隣の感染症情報などを添えて、返信もしていますよ。

大河内 小学校の校医としては、小児科月一会の先生方と共同で「インフルエンザ流行時における学級閉鎖の有効性」など、ユニークな研究もされていますね。

渡部 私たち校医はインフルエンザが流行り、児童の欠席が多くなると、学校長から学級閉鎖の相談を受けるのですが、医学的な根拠がはっきりしていないため、自信を持って答えられませんでした。そこで、複数の自

治体の教育委員会や小学校の協力を得て、学級閉鎖前後の欠席者の変動を統計学的に検討したところ、3日以上学級閉鎖で有意に欠席数が減少することがわかりました。つまり、半日の授業打ち切りや週半ばでの1〜2日の学級閉鎖では効果がなく、土日に絡めて3日連続の休みにした方が効果的なのです(図)。

大河内 医院での臨床の傍ら、調査研究も幅広く進めていらっしゃるんですね。活発に活動される渡部先生のモチベーションの源は何ですか。

渡部 私が大学生の頃は、学生運動の真っ只中でした。小児科医になって40年になりますが、当時培った「長いものには巻かれたくない」という思いはずっと持ち続けています。前例に従うばかりではなく、自ら新しい方法を考え、提案したい。そのように前向きに行動する性分なのかもしれません。

大河内 これから渡部先生が取り組まれないことがありませんでしたら、教えてください。

渡部 感染症対策の基本は、何といつても予防接種です。診療所に来院する子どもたちだけでなく、地域の関係者にも啓発し、適切に実施してもらえよう努力したいですね。併せて、日本の予防接種は、以前の麻しんワクチン1回接種をはじめとして、現在では改善された点も多いのですが、今でもまだ不十分な点がありますので、是正に向けて仲間とともに声を上げ続けていきたいと思っています。

大河内 地域全体を視野に入れた感染症予防、保育所の嘱託医、学校医としての保健活動、そして調査研究と日々の臨床。地域の子どものために、奮闘される渡部先生のご活躍を伺って、改めて地域の小児科の先生の存在の大きさを痛感しました。本日はどうもありがとうございました。

わたなべ小児科医院

院長 渡部 礼二
所在地 〒921-8042
 石川県金沢市泉本町 5-5-1



渡部先生オススメの ちょっといい場所

兼六園

水戸借楽園、岡山後楽園とならぶ日本三名園の一つ。加賀歴代藩主の庭園として長い歳月をかけて造られました。広大な土地に、池、築山、御亭を配置した池泉回遊式庭園で、大名庭園の典型的な意匠を持ちます。霞ヶ池、根上松、翠滝、黄門橋などの名所のほか、冬の風物詩・雪吊りや梅苑の紅梅白梅など、四季折々の美しい景観を楽しむことができ、国の特別名勝にも指定されています。



写真提供：金沢市

〒920-0937 石川県金沢市兼六町
 TEL:076-234-3800(石川県金沢市・兼六園管理事務所)